

### 3 平成16・17年度の推進研究校の取組

## 2 推進研究校の取組

〈研究主題〉

### (1) 「心豊かに、共によりよく生きようとする児童の育成」

広陵町立真美ヶ丘第一小学校

#### 1 はじめに

本校は、奈良盆地の中西部に位置し、新興住宅地を校区とする創立22年目の学校（現在児童数 437人）である。児童は、自然の中で異年齢同士で遊ぶことが少なく、コンピュータゲームやテレビを相手に時間を過ごしたり塾に通ったりすることが多い傾向にある。また、家庭は核家族が多い。

「子どもたちが変わってきた」という声が聞かれて久しいが、本校の児童もその例外ではなく、自立の遅れ、社会性の不足、規範意識の低下、人間関係をつくる力の未発達などの傾向がみられる。まさに、生きる力の根幹にかかわるところが課題として出てきている。また、地域の歴史が浅いこともあり住民相互のつながりが希薄で、住民や家庭の価値観の多様化もかなり進んでいる。

しかし、子どもたちは、よりよく生きたいという願いをもち生活している。また、一人で生きていけるものではないことも、子どもたちは気付いているようである。このような思いを大切にしながら、自分をしっかりと見つめ、主体的に判断・行動ができ、人の気持ちを思いやれるような児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

そこで、下図のように、研究推進の工夫、道徳の時間の充実、学校全体で取り組む道徳教育の3つの観点を柱に、見直し、再構築、工夫、関連付けなどを行い、研究主題に迫っていった。

### 心豊かに、共によりよく生きようとする児童の育成

心豊かな子……………豊かな感性をもち、人の心や自然を大切にする子

共によりよく生きる子……互いのちがいを認め、助け合い、自分も相手も大切にする心をもって実践できる子

#### 《研究で目指す子ども像》

- ・主体的に判断し、進んで実践できる子
- ・相手の立場や気持ちを考えられる、思いやりのある子
- ・自他の生命を大切にする子
- ・社会の一員として助け合いながら、進んでみんなのためにつくす子

#### 道徳の時間の充実

道徳教育を補充、深化、統合するかなめの時間としての道徳の時間の充実

- ・児童の実態を踏まえた資料選びについての研修
- ・道徳の時間を充実させるための手順と工夫の模索
- ・ワークシートの活用の工夫と充実
- ・授業実践研究

#### 学校全体で取り組む道徳教育

これまで取り組んできた取組の見直し、再構築

- ・「ふれあい活動」の充実
- ・生徒指導にかかわる取組の見直し
- ・教育環境の整備
- ・家庭・地域との連携・協力

#### 〈研究推進の工夫〉

教職員の共通理解、取組に対する意識改革

- ・実態把握（児童理解）
- ・研究組織と体制の工夫、改善
- ・研究の基本姿勢と研修全体計画の共通理解
- ・研修のもち方の工夫と充実

## 2 研究課題

- 児童が自ら課題に取り組み、共に考え生きようとする道德教育の推進
- 自立心、規範意識、協力し合う態度などを育てる道德教育の充実

## 3 研究の特色及び概要

### (1) 研究推進の工夫

道德教育は、道德の時間だけでなく、全ての時間、全ての教職員がかかわる教育活動である。また、子どもたちや家庭・地域社会の変化に的確に対応していくために、これまで以上に教職員の共通理解や意識改革が必要であると考えた。

そこで、教職員がこれらの変化の状況を的確につかみ、共に研修を深め、共に前進していこうとする研究推進の在り方について、次のような工夫を行った。

#### ① 実態把握（児童理解）

児童の実態把握やその共通理解の機会を増やした。（職員会議、教材研究、アンケート調査）

#### ② 研究組織と体制の工夫

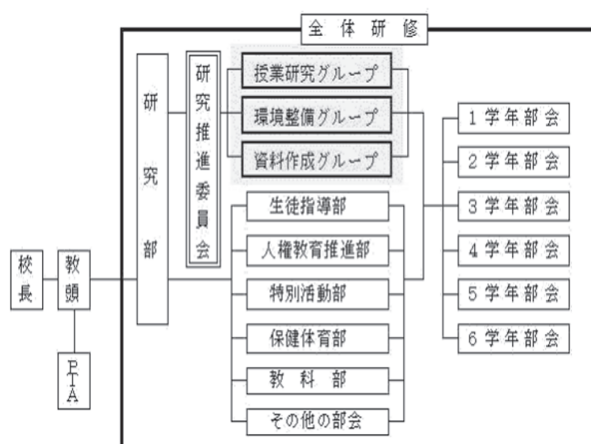
全教職員がいずれかのグループに属し、全教職員で進める道德教育の体制をつくった。

#### ③ 研究の基本姿勢と研修全体計画の共通理解

#### ④ 研修のもち方の工夫と充実

- ・ 研修時間の確保
- ・ 道德資料の選定による意識の高まり
- ・ 学習研究の工夫による研修内容の焦点化
- ・ ふれあい活動・生徒指導との関連の意識化
- ・ 校外研修の共有化

【研究組織図】



### (2) 道德の時間の充実

道德の時間は、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などにおける道德教育を補充、深化、統合し、道德的価値の自覚を深めるためのかなめとなる時間である。また、一人一人の児童がそれぞれの道德的価値のねらいとのかかわりにおいて自分を振り返り、道德的価値を内面的に自覚し道德的実践力を育てていく時間でもある。

そこで、道德の時間を充実させていくために、道德資料の選定や指導方法、学習内容を見直し、授業実践を中心に研究を行った。

#### ① 価値の内容項目に確かに迫る資料の選定

ねらいとする道德的価値がつかみやすいかなどの6つの道德資料の選定のポイントを明確にし、各学年で児童の実態にあった資料を選び、年間指導計画を作成した。

#### ② 道德の時間を充実させるための手順と工夫の模索

【導入】	・ねらいにかかわる子どもたちの経験・体験を振り返らせることで、学習の課題をつかみ学習への意欲を高める。〔写真、事前調査、直接体験などの活用〕
【展開】	《資料提示の工夫》 ・範読のほか、紙芝居、切り抜き絵、視聴覚機器活用による提示なども取り入れる。 《発問》

	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心発問や基本発問は、ねらいや資料にかかわる児童の意識について十分に予測しながら、ねらいに迫るステップを想定して設定する。</li> <li>子どもたちの反応から、さらに考えを深められるような補助発問を、あらかじめ用意しておく。</li> <li>中心発問では、十分に時間がとれるように計画を立て、児童の多様な経験や体験を踏まえた考え、心情が出てくるように配慮する。これらの話し合いを通して子どもたちが互いに考えを深め、高めていけるようにする。(他の人の経験や心情の共有化及び考えの広がり)</li> </ul> <p>《振り返りの時間の確保》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自らの経験・体験を振り返る時間を十分に確保し、自分とのかかわりにおいて道徳的価値をとらえることができるようにする。</li> <li>場合によっては、振り返りカード(ワークシート)、「心のノート」などを活用し、書き込み作業を取り入れていくことで、じっくりと自分を見つめ直し、自分のよさや課題について気付くことができるようにする。</li> </ul> <p>《板書の工夫》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的に道徳的価値の自覚が図れ、事後に余韻が残るように配慮し、一時間の学習の流れがわかりやすい、インパクトのある(大きさ、色分け、構成の工夫)板書づくりをする。</li> </ul> <p>《多様な学習活動の取り入れ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料によって、心情の理解や自分の考えを深めるために、動作化、役割演技、劇化などを取り入れる。ただし、体験的活動そのものが授業の中心にならないように注意する。</li> </ul>
【終末】	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者のまとめや説話が中心となるが、学習に余韻を残し、子どもたちの心情をより高めていけるような工夫も取り入れるようにする。</li> </ul> <p>(他の教職員やゲストティーチャー、ビデオ・写真・音楽・詩・「心のノート」などの活用)</p>

### (3) 学校全体で取り組む道徳教育

道徳教育は、全教育課程を通して行っていることを踏まえ、これまで実施してきた活動、行事、指導などを道徳教育の観点から見直し、道徳的価値との関連を明確にしながら進めていきたいと考えた。

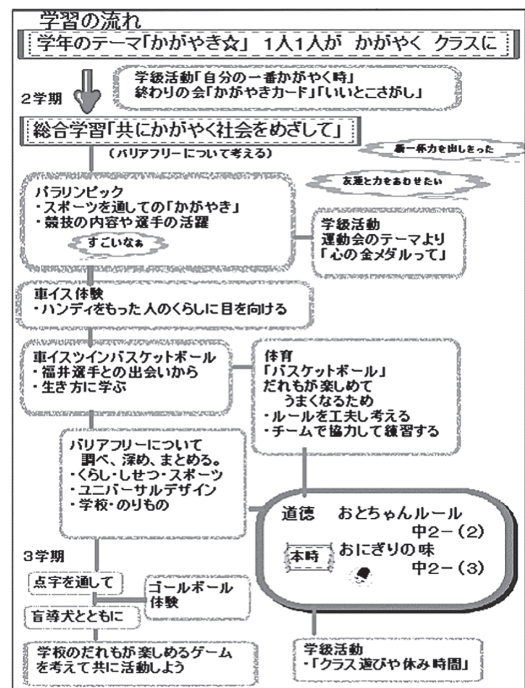
そこで、本校が行ってきた「ふれあい活動」と「生徒指導の取組」を中心に見直しを図ってみることにした。また、豊かな心をはぐくむ教育環境の整備や、道徳性を培っていくための家庭・地域との連携・協力の在り方についても取組を進めてきた。

#### ① 「ふれあい活動」

人と自然とのふれあいを中心に、豊かな感性の育成と人間関係の醸成を目指した「ふれあい活動」をさらに充実させ、道徳の時間との関連を図りながら取り組んだ。〔児童相互理解・相手意識が必要な活動〕

- たてわり活動  
  - <低中高2-(3)>
- 集会活動(おめでとう集会、ありがとう集会)  
  - <低2-(2)>
- 高齢者、幼稚園児とのふれあい活動  
  - <低中高3-(2)>
- いろいろな人たちとの出会い
- 障害者との学習活動<中2-(2)>
- 外国籍の人たちとの交流会<高4-(8)>
- 戦争体験者との学習活動<低中高3-(2)>

【学習関連図】



## 生活目標

- ・様々な分野の専門家との学習活動

<中3-(1)、4-(2)、高4-(4)、4-(7)>

〔自然とのふれあい活動〕

- ・花、米、野菜などの栽培活動

- ・野外活動、野外観察

<低中高3-(1)>

### ② 「生徒指導の取組」

- ・生活目標の見直し

生活目標と各学年の道徳の時間や学校行事などとの関連を図り、学校全体で効果的に取り組んでいけるようにした。

- ・児童会活動の取組

児童の主體的な活動の場として、次のことに取り組んだ。

「まみいちうんどう」……よりよい学校にしていくための児童自らが考えた生活のめあてと、そのめあてを親しみやすくした合言葉による運動

「真美一ボランティア活動」…お世話になっている地域の方にお礼の意味を込めた製作・奉仕活動

### ③ 「教育環境の整備」

- ・学年、学校掲示板の工夫
- ・子どもたちとつくる学校環境づくり
- ・生徒指導面からの学校環境づくり

### ④ 「家庭・地域との連携・協力」

- ・学級・学年懇談会による情報交換及び連携
- ・学校新聞・学年便りを通しての啓発
- ・公開学習による理解と協力
- ・道徳教育講演会の実施



学 期	月	月 間 生 活 目 標	道 徳 価 値 項 目			関 連
			低 学 年	中 学 年	高 学 年	
一 学 期	4	・気持ちのよいあいさつや言葉遣いをしよう	2-(1)	2-(1)	2-(1)	初めでとど大会
	5	・いろいろなきまり・約束を大切にしよう	4-(1)	4-(1)	4-(2)	
	6	・責任を持って仕事(係/清掃/委員会/当番活動など)を進んでしよう	4-(2)	4-(2)	4-(1)	【真美一】 【真美一運動】
	7	・身の回りの整理整頓をしよう	1-(1)	1-(1)	1-(1)	夏休み前の行事
	8	・自分で計画を立て、規則正しい生活をしよう	1-(1)	1-(1)	1-(1)	秋分見初詣
二 学 期	9	・みんなと協力して最後までやりとげよう	2-(3)	2-(3)	2-(3)	体育大会
	10	・みんなのために役立つ仕事を一生懸命しよう	4-(2)	4-(2)	4-(4)	4/23(土)7時
	11	・自分のこと(いのち)もみんなのこと(いのち)も大切にしよう	2-(2) 3-(2)	2-(2) 3-(2)	2-(2) 3-(2)	芸術鑑賞
	12	・どのような時にもねばり強く努力しよう	1-(2)	1-(3)	1-(2)	マラソン大会
三 学 期	1	・感謝の気持ちを大切にしよう	2-(4)	2-(4)	2-(5)	
	2	・友達のことを考えてみよう	2-(3)	2-(3)	2-(3)	
	3	・一年間をふりかえろう				ありとど大会

## 4 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

《研究推進の工夫より》

- ・児童理解がさらに深まり、一人一人をじっくりと、あるいは多面的に見る見方が広がった。また、子どもたちのよい面を、さらに見いだせるようになってきた。
- ・教職員間で児童の様子について自然と話し合う機会が増え、学校全体で取り組む道徳教育の気運と意識が高まった。

《道徳の時間について》

- ・指導方法や学習内容の見直しにより、道徳の時間が充実した。子どもたちの道徳の時間における前向きな姿勢が広がり、子どもたちが多様な見方や考え方のあることに気付いたり、自己の経験と重ね合わせたりする機会が増えた。
- ・道徳資料の選定の過程で、子どもたちの思考や経験を踏まえた資





料選びとともに、教職員同士の意見交換により児童の実態把握がさらに進み、学習構想を深化させることができた。

#### 《学校全体で取り組む道徳教育について》

- これまでの学校全体で取り組まれた様々な教育活動の意義が再認識され、学校全体で行う道徳教育推進の大切さを実感できた。
- 生徒指導において、道徳の時間との関連を図って取り組むことより指導の成果を上げることができた。子どもたちが生活目標に対する意識をさらに高め、指導者側の共通理解の上に立った指導とも相まって、子どもたちの実践していく姿が多く見られるようになってきた。
- 児童会活動が活性化した。子どもたちが自らよりよい学校づくりをしようとする気運が広がり、委員会活動を中心に子どもたち自身による学校環境づくりが進んできた。
- 道徳的な教育環境の整備により、子どもたちの道徳性が高まるとともに、保護者の学校の取組に対する理解と協力を得ることに役立った。

#### (2) 今後の課題

- 本研究により、本校における道徳教育を進める上での基盤を構築できたと考える。今後は、本校の道徳教育をより深化し、特色あるものにしていくために、研究の視点を絞りさらに掘り下げていく必要がある。
- ふれあい活動など、体験学習の内容をさらに充実させるとともに、それらの学習活動を進めていくための学習環境の整備も行う必要がある。そして、体験活動と道徳の時間との関連を一層図り、より望ましい体験学習の在り方を探っていきたい。
- 家庭での道徳にかかわる意識や考え方を把握しながら、さらに、家庭や地域への情報発信を積極的に行うなど、家庭や地域と共に道徳教育を進めていくことが大切である。